

1 学校の教育目標の達成状況（概要）

※ 表中の数字の見方

(1)~(5)は児童・保護者、(6)は教職員それぞれのアンケートの中から表中の①~⑧、⑩にあてはまる項目で集計した数値を表示している。該当するものがない・未実施の場合は「\」と記している。（あてはまる：4点 少しあてはまる：3点 あまりあてはまらない：2点 あてはまらない：1点 よく分からない：0点）で集計した平均値を示している。全員が「あてはまる」と答えたものは4.00になる。

(1) 自ら学ぶ子…「基礎的・基本的な内容の定着」と「家庭での学習習慣の定着」

| 項目                 | 児童   |      | 保護者  |      |
|--------------------|------|------|------|------|
|                    | 1学期  | 2学期  | 1学期  | 2学期  |
| ① 基礎・基本的な学習内容の定着   | 3.71 | 3.69 | 3.21 | 3.15 |
| ② 家庭での学習習慣・学習規律の定着 | 3.33 | 3.49 | 3.07 | 3.39 |

○ 昨年度に引き続き、基礎的な学力の定着・向上とよりよい学習習慣の定着に向け、教職員の共通理解を基に取り組むとともに、すべての児童が分かりやすく、学びやすいようユニバーサルデザインを意識した授業を行った。今年度は「学びの週間」に対して、より児童が意識を持って取り組めるよう、朝会や昼の放送での取組状況の発表や称揚、朝会での担当者の啓発等を行った。少しずつその成果が現れつつある。

(2) 正しく判断する子…「あいさつ」と「はきものそろえ」

| 項目        | 児童   |      | 保護者  |      |
|-----------|------|------|------|------|
|           | 1学期  | 2学期  | 1学期  | 2学期  |
| ③ 進んであいさつ | 3.60 | 3.75 | 3.57 | 3.51 |
| ④ はきものそろえ | 3.50 | 3.66 | 2.41 | 2.38 |

○ この2つの事項は、宮窪小学校の伝統として、全児童が特に意識して生活している。「進んであいさつ」については、登校する児童と教師、児童同士で元気よく挨拶をする姿がさらに見られ始めた。「はきものそろえ」についても、全校朝会や校内放送など、様々な機会を捉えて意識付けをしている。

(3) 正しく判断する子…「自分がされてうれしいことをしたり言ったりする」と「だまってそうじ」

| 項目            | 児童   |      | 保護者  |      |
|---------------|------|------|------|------|
|               | 1学期  | 2学期  | 1学期  | 2学期  |
| ⑤ 思いやりのある優しい子 | 3.37 | 3.46 | 3.69 | 3.64 |
| ⑥ だまってそうじ     | 3.23 | 3.41 | \    |      |

○ 各教科等や総合的な学習の時間、学校全体の教育活動との関連を図り、道徳的实践力を育てている。相手を思いやる気持ちを持たせるために、児童には「自分がされてうれしいことをしたり言ったりする。」と具体的に指導している。授業中だけでなく、登下校中や休み時間の児童同士の関わり方等、折に触れ、互いの児童の想いを聞き、適切に関われるよう、職員の意識統一を図りながら指導・支援を行った。

○ 「だまってそうじ」は、児童が時と場面に応じて適切な行動が取れるように、全校で取り組んでいる。今年度は市で行う「頑張る子ども応援賞」とも関連付けて、黙って一生懸命掃除をする児童を称揚し、善い行いを全ての児童に広げていけるよう取り組んだ。

(4) がんばる子…「健康・体力づくり、生活習慣の確立」

| 項目       | 児童          |             | 保護者         |             |
|----------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|          | 1学期         | 2学期         | 1学期         | 2学期         |
| ⑦ 早寝・早起き | <b>3.42</b> | <b>3.25</b> | <b>3.46</b> | <b>3.41</b> |

○ 「早寝・早起き」については、望ましい生活習慣を身に付けることができるよう、毎月生活習慣調べをはじめ、いろいろな場面で継続して指導をしている。児童も保護者も高めのポイントを保っているが、家庭との連携・協力についてはさらに工夫・改善の余地がある。

(5) 家庭・地域社会と連携する…「学校・学年便り、HPなどの情報発信」 「家庭との連携」

| 項目     | 児童  | 保護者         |             |
|--------|-----|-------------|-------------|
|        | 1学期 | 1学期         | 2学期         |
| ⑧ 情報発信 | \   | <b>3.58</b> | <b>3.50</b> |

○ 各教職員がHPでの情報発信に取り組み、様々な学年の活動の紹介を行った。HPに親しむ児童も増えている。保護者の関心も高く、HPの閲覧者数も常に家庭数を超えている。また、日常でもこまめに家庭と連絡を取っていくことを心掛けている。

(6) 業務改善…「働き方改革を意識した校務処理」

| 項目         | 1学期         | 2学期         |
|------------|-------------|-------------|
| ⑨ 効率的な校務処理 | <b>3.18</b> | <b>3.09</b> |

○ 働き方改革を意識した校務処理については、昨年度に続き平均ポイントが3を超えていて、意識的に取り組むことができた。今年度は超過勤務時間が80時間を超えた教職員がいる月が1回（1名）のみであった。今後は行事計画やレポート文書作成など、具体的な内容に対して効率化や効果的な仕事の進め方ができるように取り組んでいきたい。

2 主な取組の課題と改善

- (1) 学力向上について、教職員間で共通理解ができるよう、教職員間での情報共有や研修を効果的に行っていく。また日々の授業での工夫に加え、家庭への啓発も効果的に行えるよう、「学習の約束」「学びの週間」等の既存の仕組みを効果的に活用する方法を考えていく。
- (2) 生徒指導主事を中心に、「自分から挨拶」を意識付けするなど、学校全体で取り組むことができた。地域の方から褒めていただけるほど挨拶が向上してきているが、いつでもだれにでもできるように今後も継続して指導する。「はきものそろえ」については、学習習慣同様、校内での行いを家庭にも広げていくことが課題である。
- (3) 全教育活動において、全教職員が児童の言動を肯定的に捉え、児童を支援していくことに取り組んでいる。しかし、自分の思いが通らないと、カッとなったり、すねたりする児童もいる。トラブルが起こった時に丁寧に対応することを全教職員で心掛けたが、さらに教職員の意識を向上させ、何かが起こる前に細やかな対応をし、児童のがんばりやよい行動を称揚することで、児童の自己肯定感を育成していく。
- (4) 休み時間の外遊びを教職員も一緒に行ったり、生活習慣調べを基に細やかに指導していった結果、運動への意欲や生活習慣づくりへの児童の意識は向上している。しかし、週明けの月曜日に欠席者や遅刻者が増えるなど、生活リズムがうまく整っていない児童もいて、引き続き、家庭と連携しながら、健康的な生活リズムが身に付くように指導する。
- (5) 学校・学年便りやHPを用いて、本校の教育活動を分かりやすく紹介したり、適切な情報をタイムリーに発信したりして、家庭との連携を図る。
- (6) 地域や社会の状況に対応しながら学校行事の見直しや精選に努めるとともに、各主任・担当が各分掌についての起案や仕事のチェックを、主体的な考えを持ちながら行い、仕事の質を高めた上で効率的な校務処理が行えるように校長の指導の下、組織的に取り組めるようにする。